

	<h2 style="margin: 0;">練馬区平和祈念コンサートを開催 ～名誉区民 ちば てつや氏による戦時体験の講演も実施～</h2>
<p>と き</p>	<p>平成30年3月20日(火) 午後6時～8時10分</p>
<p>と ころ</p>	<p>練馬文化センター(練馬 1-17-37)</p>
<p>区は、20日、練馬文化センターで平和祈念コンサートを開催し、1,057人が来場した。</p> <p>音楽を通して、平和について考えるために開催したもので、コンサートでは、区にゆかりのあるマリimba奏者の名倉誠人さんとピアノの板橋由紀さんが演奏を披露した。</p> <p>また、練馬区名誉区民で漫画家のちばてつや氏が、幼少期に体験した旧満州からの引き揚げ体験について講演した。来場者からは、「平和がどんなに幸せか改めて感じた」「平和についてより一層考える機会となった」「貴重な話を聞いてよかった」などの声が寄せられた。</p>	



▲ちばてつや氏による講演の様子

【平和祈念コンサート出演者】

- ① **名倉 誠人** (マリimba) … 武蔵野音楽大学卒業、同大学院修了。現在は、ニューヨークを拠点に、4大陸15の国々で、四半世紀にわたり国際的な活躍を繰り返している。
- ② **板橋 由紀** (ピアノ) … 武蔵野音楽大学卒業。クラシックのみならず、ポピュラー、バレエピアノなど、幅広いジャンルのピアニストとして活躍している。



▲コンサートの様子

【戦時体験の講演者】練馬区名誉区民 漫画家 ちばてつや

「あしたのジョー」など数多くの作品を発表し、戦後を代表する漫画家として活躍している。

<講演の概要>

- ・築地で生まれてすぐ、両親の仕事の関係で中国へ渡った。
- ・4人兄弟の長男で、物心ついたころには印刷工場の社宅の煉瓦塀の中で、日本人ばかりの中で暮らしていた。塀の中は退屈で、いつも塀の外へ行きたいという思いでいた。
- ・1942～3年、5歳になったころ、今まで仲良くしていた周りの中国人のおじさんたちが優しくなくなったのを感じた。子どもながらに、違和感を覚え、空気が変わったと思った。
- ・まもなく8月15日を迎えた。とても暑く、セミが鳴いていた。日本人だけ、工場長の家に集まるよう指示され、会議が終わると、大人たちが顔を真っ青にして出てきて泣き崩れた。玉音放送を聞いていたのだった。その日、塀の外で爆竹が鳴り始め、こん棒や石を持った中国人が塀を登って中に入ってきた。社宅のガラスが割られ、悲鳴が飛び交った。それが毎晩のように続くようになった。
- ・日本に何とか帰ろうとしていたが、ラジオを聞いていても、日本へ返すという情報が何もなかった。人づてに大連の近くの葫蘆島の港へ行けば船に乗れるという話を聞いた。
- ・アルバムなどを持って、夜、中国人が寝静まるのを待って、葫蘆島を目指して移動した。
- ・道中、父親の親友であった印刷会社の同僚だった中国人の方に出会い、その人の家の屋根裏部屋に2週間ほどかくまってもらった。そのおかげで、無事に帰ることができた。
- ・その小さな屋根裏で、紙と鉛筆を使って、泣く弟たちのために絵本を書いて読み聞かせた。漫画家になる原点は、その屋根裏部屋にあったと思う。